

〈コース〉 5 km

JR掖上駅 — 掖上籬子塚古墳 — 国見山 —  
 日本武尊白鳥陵 — <sup>5</sup>孝昭天皇掖上池心宮跡 —  
<sup>6</sup>孝安天皇陵 — 役行者遺跡の地 — JR玉手駅…解散  
 ※近鉄 御所駅へ徒歩約2 km 30分

（ 総 説 ）

西に葛城山系の東麓を望み、南に巨勢山から吉野山塊の西端に連なるこの辺りは、古代から広く葛木、葛城と呼ばれ、縄文、弥生の先史時代に既に人が住みつき開けた土地であった。有史時代ともなると、大和朝廷に匹敵する出雲系の加茂氏や葛城氏、これと同族という蘇我氏、さらにこの峰続きに勢力を張った巨勢氏等の、中央大豪族がこの地にひしめいていた。

飛鳥或いは奈良の都から筋交いに通ずる道が、ここで南行して縦貫する。この道は吉野川に突き当たり、西に紀和の国境を越え、やがて紀の水門—加太—友ヶ島—淡路を経て、四国の阿波に至る南海道である。皇太子中大兄を伴った<sup>37</sup>斉明女帝や<sup>41</sup>持統女帝も、和歌浦や熊野の湯に通われた道であった。特に本編「掖上②」の地は、<sup>55</sup>室の大墓（宮山古墳 全長238m）<sup>6</sup>孝安天皇玉手丘上陵、籬子塚古墳、日本武尊の白鳥陵等の、前方後円墳をはじめ数百の古墳の密集地である。

（ 掖 上 陵 ）

書紀：持統天皇4年3月5日の条に「天皇掖上陵に幸<sup>444</sup>して、公卿大夫の馬を觀たまう」と云う記事がある。掖上陵については定説らしいものは無いが、御所の小字掖

古代史散策

No. 57

わさ せみ  
掖 上 ②

パナソニック電工松寿会  
古代史散策部

平成元年10月作成  
平成27年11月四刻

上に鎮座する鴨都波神社付近に掖上池、掖上池心宮跡伝承地がある。同社を中心に、大字北十三から大字宮にかけては、葛城川がいわゆる天井川と化し、東岸に大きな堤防が構築されている（国道24号が堤上を走る）。

堤防決壊の時は、元文5年(1740)の「御所流れ」のような水災を受けた。葛上郷条理制の配水は、この堤防によって確保されており、巨大な堤防はおそらく条理制施行以前のもので、掖上陂に相当するものと思われる。

堤防下の大字蛇穴には、河内国茨田堤を造った茨田連が移住したと伝え、蛇穴の野口神社は、茨田連の祖神日子八井命を祭祀すると云う。

（ 各 説 ）

【掖上罐子塚古墳】

御所市柏原

丘陵端を利用し、丘尾を切断して築造された典型的な大前方後円墳。全長160m、後円部の直径約103m、前方部の幅約90m、周濠の痕跡が明瞭である。

かつては孝安天皇の陵や日本武尊の白鳥陵、或いは竹内宿禰の墓などに比定されたこともあった。既に早くから盗掘されていたが、冠帽埴輪や金銅製帯金具をはじめ、挂甲の小札の一部らしい鉄片などが出土した



空から見た罐子塚古墳

と云われ、これらの遺物から400年代に築造された古墳で、この地の豪族巨勢氏の長の墓であろうと考えられている。

なお、新庄町南道徳にある法林寺の手水鉢は、ここから発見された刳り抜き式石棺だとの伝承がある。

【国見山】

御所市富田

標高229m、この山塊での最高峰である。古来この峰を神武天皇国見の山「嘘間の丘」と云い伝え、山頂には巨大な聖蹟石碑が建立されている。これは単に「国見」という文字に惑わされただけの誤解である。

古代創世期の国は、いわゆる村落国家で、一国はせいぜい目に見える範囲に過ぎないのだから、国見にはさして高い場所の必要はない筈であって、現在の“国”の観念で、古代の国見の丘をやたら高所に比定することは笑止千万という他はない。

【日本武尊琴弾原白鳥陵】

御所市富田

東国攻略の帰途、伊吹山で山の神の悪霊にあてられて



日本武尊白鳥陵

病を得られ、都を目前にして薨ぜられた日本武尊の記・紀の説話はあまりにも有名である。

最初伊勢の能褒野（龜山市）に葬られたが、尊の靈魂は白鳥と化し琴弾原に至って止まった。

その地に造営した陵が此処と伝えられている。尊の魂はさらに去って古市（羽曳野市）に至りここにも陵が造られた。俗に「白鳥の三陵」と云う。なお古市からも飛び去ったとある。

日本武尊は<sup>12</sup>景行天皇の皇子で、記・紀だけでなく風土記にも登場し、九州の熊襲征伐や、東国の平定に活躍した。しかし伝説上の英雄とする説もある。

はじめ日本武尊は朝廷に出仕しない兄を捕まえて、手足をもぎ取って殺してしまうという手に負えない乱暴者であった。ところが熊襲征伐では、女装して熊襲をだまし討ちにするという狡拙さを見せ、さらに東国平定を命じられたときは「父は私に死ね、と言いたいのだろうか」と、叔母の倭媛に泣きついている。どうにも人格が一致しないのである。

ひょっとすると、モデルになった何人かの人物がいて、それを修飾するための隠れ資だったのではあるまいか。

【<sup>13</sup>孝昭天皇掖上池心宮跡】 御所市池之内

孝昭天皇は、次述の孝安天皇と同様、記・紀ともに帝記のみで何の事績も書かれていない。

天皇は<sup>14</sup>懿徳天皇の皇太子で、即位してすぐに掖上池心宮を建て、二人の皇子の弟が次代孝安天皇として即位し、兄天足彦押人命は和迺臣の始祖となったとある。

治世83年、93才で崩御。御所市三室の掖上博多山上陵に葬られたとある。

古事記：孝昭天皇の段に「葛城の掖上宮」、日本書紀：孝昭天皇元年7月の条に「都を掖上に遷す、是を池心宮と謂う」とあり、大和誌は「御所村と池内郷の間」とし、大用池付近と伝承している。

【<sup>15</sup>孝安天皇玉手丘上陵】

御所市玉手

第2代から9代の天皇の事蹟は、記・紀ともに帝記（天皇の系譜＝各天皇の宮居・后妃・子女・陵墓）のみが記載されているのみで、天皇にまつわる歴史的な記録の類いが一切書かれてなく「欠史八代」と称されている。



孝安天皇玉手丘上陵

記載されているのみで、天皇にまつわる歴史的な記録の類いが一切書かれてなく「欠史八代」と称されている。

孝安天皇、名を日本足彦国押人と云い、父は<sup>16</sup>孝昭天皇

母は<sup>17</sup>世襲足媛（出自尾張連）、皇后は磯城郡主の娘押媛。宮居は、現御所市室の「室秋津島宮」である。皇太子は<sup>18</sup>大日本根子彦太瓊（<sup>19</sup>孝霊天皇）。在位102年、137歳で亡くな

た。：この項日本書紀より

書紀<sup>20</sup>推古天皇28年是歳の条に「皇太子（聖徳太子）嶋の大臣（蘇我馬子）ともに議りて、天皇記及び国記、連、伴造、国造、百八十部を併せて公民等の本記を録す」とあり、岩波大系本は「風土記の類ではなく、神代から<sup>21</sup>推古に至る国の歴史であろう」として、わが国での歴史編纂の記事の初見である。

その後、<sup>22</sup>皇極天皇4年紀6月8日「中臣鎌子（後の藤原鎌足）中大兄皇子（後の天智天皇）等による、飛鳥板蓋宮でのクーデターにより、蘇我入鹿は斬られ、甘樫の丘の自邸にいた父の蝦夷は中大兄に攻められんとするや、邸に火を放って焼死んだ。この時、天皇の記、国記、珍宝はことごとく焼失したが、船史 惠尺が国記を

猛火の中から持ち出して中大兄に献じた」とある。この天皇記は聖徳太子編纂の歴史書であり、この時おそらく第2代から9代までの天皇の歴史は、惜しくも失われたのであろうと思われる。

陵域に孝安天皇社がある。

**【役行者 遺跡の地】**

御所市玉手

葛城鴨氏の出の役行者の出生の地、吉祥草寺もほど近く、産湯の井戸などの誕生に係わる遺跡が散在する。

※役行者 小角については、平成27年10月に実施のNo47「掖上 ①」のレジメで述べた。

**〈 参 考 〉**

「掖上 ①」より

修験道の開祖と云われた役行者は、名を小角と云い、加茂氏の出とある。小角は生まれながらにして呪術の血を受け継いでいたのであったが、葛城山に籠って鬼術を会得したと云う。※小角 叙明6年(661)生、没年不明。修験道は仏教の一派だが我国固有の山岳信仰に根ざしその面影を色濃く残して密教・道教と習合した。

メ モ

